

芸術の部

マンボウ

至上主義

愛理香

きっかけ

私がマンボウにここまで熱を注ぐことになったきっかけは意外と遅くて、高校生の夏頃になります。

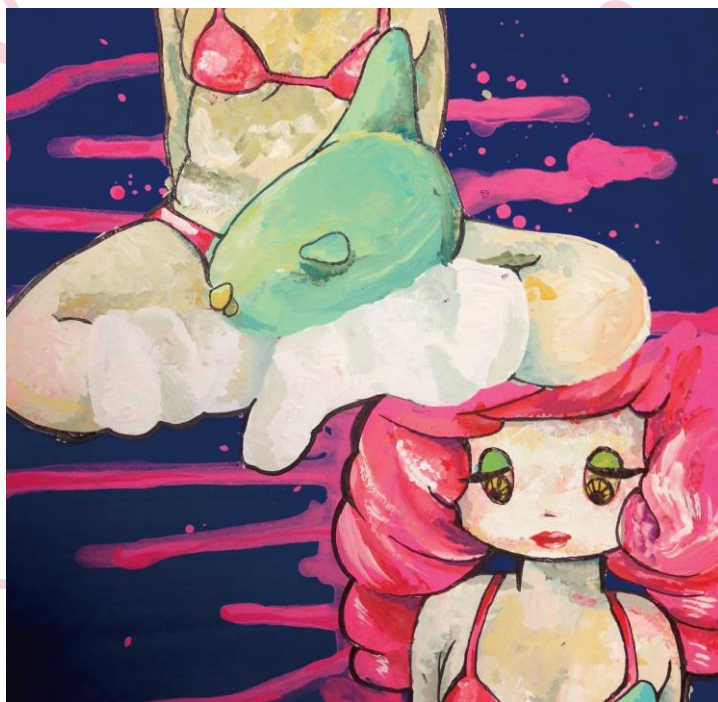
リニューアルしたてのサンシャイン水族館でその出会いがあったのですが、大きなメイン水槽を曲がった瞬間、綺麗な照明の照らされたマンボウが私の目に泳ぎ入ってきたのです。

それまでたいして海の生き物に関心がなかったのですが、ほかにはない不思議なフォルムとどう考えても海に住むにあたって何かが欠落している泳ぎ方にシールドアリスムを感じ、この時点で私はフォーリンラブをしております。

きっかけはいたって単純です。

それからというもの私はマンボウにまつわる作品や絵を制作しています。ご披露出来る場所が増え、嬉しく思っていますが、今の私には学ぶことが足りていません。

今回のマンボウなんでも博物館によるマンボウ専門雑誌の創刊きっかけに、海洋学の研究のみならず、様々な視点から研究されたマンボウに出会い、知識を深めたいです。また、この雑誌を読むことでマンボウに興味を持ち、マンボウの魅力に気づく人が増えることを楽しみにしています。



マンボウ至上主義 愛理香

twitter @Mesoo_Kooko2
mkc04mesoyn@gmail.com

芸術の部

マンボウ川柳

・白波や 荒れも漂う マンボウか（夏輝）

・マンボウよ はねが生えたら いかんかな（愛理香）

・マンボウの 刺身山盛り いりません（マンボウ仙人）

・マンボウと ゴウシユウマンボウ クサビフグ ヤリマンボウで 三属四種（夏輝）

・尾鰭なし 浮き袋なし 耳石なし ああマンボウや なにもかもなし（マンボウ仙人）



← マンボウのLINEスタンプ販売中！！



発見！ヤリマンボウのモニュメント

記：海星夏輝



とりわけ目を惹かれるのが、七星潭のサイクリングロードの端に位置する朝金漁場の裏にある大きなヤリマンボウのモニュメント！

ちゃんと舵鰭の中央が突起し、この地域ではヤリマンボウがマンボウよりも馴染み深いことを意味しているように感じられる。

台

湾の花蓮地方は世界でも

珍しくマンボウよりもヤリマンボウがたくさん漁獲される海域である。しかし、地元の漁師以外の人達はヤリマンボウをマンボウと思いついており、総称して「曼波魚（マンボーユー） or マンボーヒー」と呼んでいる。2000年代前半、花蓮地方は「マンボウの町」として町興しをしようとしたが、マンボウを食べるのはかわいそうだと非難を浴び、その後、町興しは縮小する形となったらしい。しかし、花蓮は今でもマンボウの町として、町のあちこちにマンボウをモチーフにした看板などを見ることができている。



マンボウ好きな人であれば人生で一度は訪問して頂きたい場所。天候が良ければ、美しく広がる青い海に気分が高揚することは間違いなさそう。タイミングが合えば、朝金漁場で漁獲されたばかりのヤリマンボウを見ることができるかもしれない（通常、6時前後、15時前後に2回漁獲する）。ヤリマンボウが捌かれていく様を見ると何とも言えない気持ちになるかもしれないが、この地方では高級食材として皮から骨まで余すところなく食べられ、重要水産資源となっている。七星潭ではマンボウ類の料理を出している店もあるので是非ご賞味あれ！

投稿規定

- ・投稿にはマンボウなんでも博物館のメンバーに入る必要がある(終身会費500円)。
- ・投稿はEメール(アドレスは巻末に記した)のみで受け付け、投稿媒体はパワーポイントもしくはワード。本文、図、表を張り付けた状態で投稿する事。投稿者の名前(ハンドルネーム可)、タイトルも記す事。
- ・著者名は本名でもハンドルネームでも構わないが、名前は変更できない(最初に投稿した名前をずっと使い続けること)。
- ・基本的には何でも掲載する方針であるが、編集者の判断でリジェクトする場合もある。
- ・写真や図はフルカラー掲載で、pdf形式でメンバーにEメールで配布する。発行は年4回(3月、6月、9月、12月)で、各月の9日。投稿は各発行月の1ヶ月前に締め切る。

【研究の部】

- ・研究分野は問わないが、自分が取ったマンボウ科のオリジナルデータであること。
- ・投稿原稿は基本的には <諸言→ 材料と方法→ 結果と考察→ 謝辞→ 引用文献>の流れで作成すること。
- ・<材料と方法>で使うデータは、調査期間、場所、漁法、体サイズ(推定値も可であるが、その場合は推定値であることを明記)を明記すること。
- ・引用文献は基本的に「著者の名前. 発行年. 論文や本のタイトル. 雑誌名, 巻(号): ページ数.」とし、インターネットのソースの場合は引用元の URL を示すこと。
- ・1つの論文あたり10ページ以内。

【芸術の部】

- ・自分で創作したマンボウ類のオリジナル作品である事。創作物や記事の内容は基本的には問わない。マンボウ川柳(五・七・五または五・七・五・七・七)はこの部門に含む。
- ・1記事あたり3ページ以内。

【情報の部】

- ・写真(自分で撮った写真のみ)をメインとして、写真に関連した内容であること。
- ・1記事あたり3ページ以内。
- ・マンボウ類に関する情報であれば、ジャンルは問わない(例えば、町で見かけたマンボウの看板、マンボウ料理など)

編集後記

海星夏輝

マンボウは様々な点で知的好奇心をくすぐる生き物であるが、その生態を調べて学術論文とするまでにはなかなか時間がかかってしまふ。マンボウはペットとして飼うこともできないければ、普段の生活の中で目にすることもそうそうない。故に、まだまだわかっていないことはたくさんある。学術論文は自分が取ったデータから何が言えるのかを明記しなければならぬが、そこまで気を張らなくても発信できる媒体が欲しかった。しっかりと調査・研究した内容はレベルの高い学術雑誌に率先的に投稿して欲しいが、そういう雑誌に載らないような小さな発見を本誌では扱い、情報を蓄積していきたいと思う。同じ物を見ているかは大きく異なるので、これまで研究の経験が無い方にも是非投稿して頂けたらと思っている。どうもわかっていない内容は、私の投稿や、投稿規定を参考にしたい。マンボウの専門雑誌はほとんど作りたいと考えていたので、個人的な発信で終わるか、広がりを見せるかはわからないうが、とりあえず形になって非常に嬉しく思っている。

博物館メンバー募集中！

マンボウのことが好きでより深く知りたい人、マンボウの創作活動・宣伝したい人、募集中です！
メンバーは本館の趣旨に賛同できる個人とします。メンバー入会の際、終身会費500円を頂きます。
メンバーになると、定期発行の本誌の閲覧および投稿が可能になります。

うきゝ 第1号

2014年8月9日発行

編集：海星夏輝・愛理香

発行：マンボウなんでも博物館

E-mail: 海星夏輝 ushimanbou@yahoo.co.jp

愛理香 mkc04mesoy@gmail.com

Journal of Ukiki No.1

9, August, 2014

Editor: Natsuki Kaihoshi & Erika

Published by Ocean Sunfishes Information Storage Museum